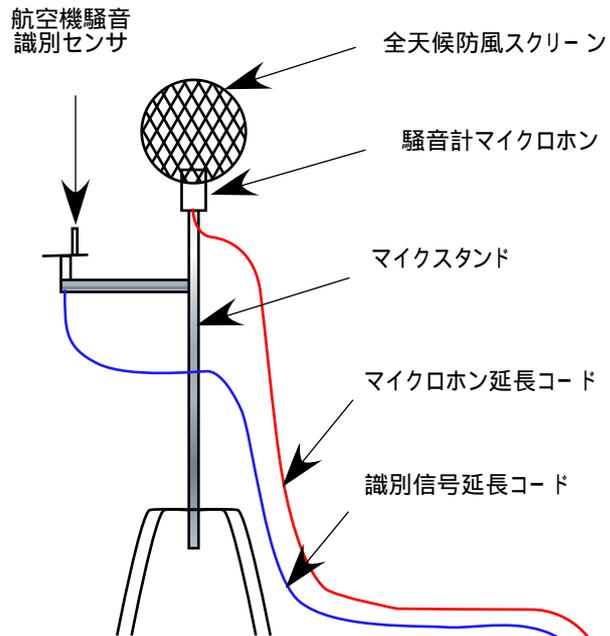


図2 航空機騒音自動監視測定システムの概要

マイクロホン、識別装置センサーは屋上等に設置します。

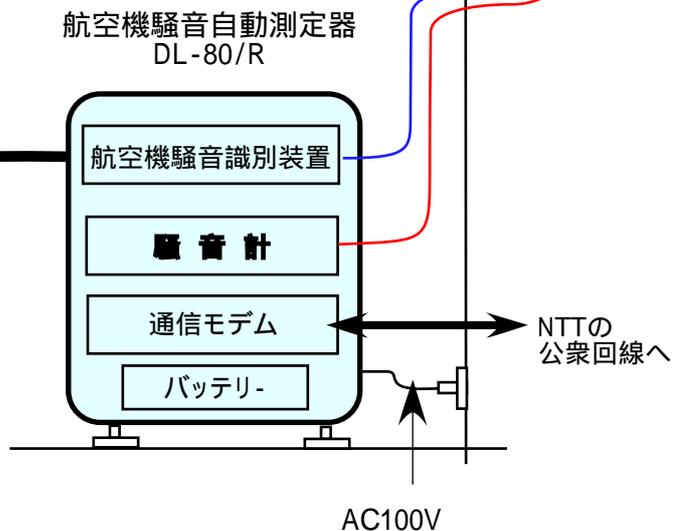
測定機能

騒音が暗騒音のレベルを一定時間以上継続して超過し、かつ航空機の発する電波の電解強度が設定レベルを超えた場合、その騒音を航空機騒音とみなし、保存します。(同時に離発着の判別を行います)



測定機本体は、ラック (施設付) にマウントし、建屋内に設置します。通常はAC100V電源で稼働しますが、停電時にはバッテリーで動作します。

測定データ
内蔵プリンタに印字
フロッピーディスク及びメモリーカード等に記録
(約3ヶ月分保存可能)



データ保存機能

測定されたデータは、ハードディスク、フロッピーディスク及びメモリーカードの複数の媒体に並列保存されます。同時にプリンタに印字も可能ですので、現場で簡単にデータの確認ができます。またその場で、記録データを画面に呼び出し表示したり、それをプリンタに印刷することもできます。

オンライン通信機能

測定保存されたデータは、電話回線を通じ中央局に集められます。また、測定局の各種設定値(センキ値、設定時間、日付、時刻等)の設定・変更もオンラインで行うことができます。故障時・停電時には、測定局からメンテナンス拠点にダイヤルし、システムの異常を通報しますから、素早い対処により、欠測を最小限にとどめることができます(ヘルプコール)。